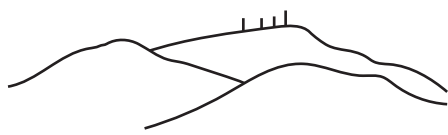


# Youth Manna

2022/1/24 - /1/30



マルコ 1:35

さて、イエスは朝早く、まだ暗いうちに起きて寂しいところに出かけて行き、そこで祈っておられた。

2022/1/24(月)

## 申命記 7 章

イスラエルの民に対して、主は約束の地で7つの異邦の民を聖絶するように語られた(1,2)。神の命令は、①決して異邦の民と何の契約も縁も結ばないように(2,3) ②彼らの祭壇を打ち壊し、石の柱を打ち砕き、アシェラ像を切り倒し、彼らの鑄造を火で焼くように(5,25)ということ。それは、神様が私たちをただ愛してくださった、その選びと恵み(6~8)に応答する方法なんだよ！

ところで、みんなにとっての「敵」は何か？私は、つつい SNS を見てしまって神の御国ではない価値観が目、耳に入ってきてしまって、それに影響されてしまうことです。だから、今日、iPhone でアプリの使用制限の設定をしようと思います。

今日、みんなも自分にとっての敵は何か、どうしたら敵と戦えるか、具体的な戦略を考えて実行することで、神様の道に歩もう！

2022/1/25(火)

## 申命記 8 章

荒野の 40 年は、民の不信仰の結果だったけれど、その旅には神様の目的や意図があったんだね(2)。大変な時、危機に面した時に、人の本心は現れやすいものかもしれない。神様は過酷な荒野の旅を通して、本当に生きるとはどういうことかを民に悟らせたんだ(3)。

モーセは約束の地を目前にして、決してこの「荒野の 40 年」という神様の重要なレッスンを忘れないようにと命じている。それは、簡単に高ぶり、神様の御業を忘れてしまう人の弱さや罪深さを知っていたからかもしれないね。

荒野の旅のように、今日の歩みを神様が見守っていてくださっていることを覚えよう。そして、18 節「あなたの神、主を心に据えなさい」とは自分にとってどういうことか、考えてみよう！

2022/1/26(水)

## 申命記 9 章

約束の地への決断の時が来た。ここでの命令は、荒野における民の不信仰を振り返らせるものである。40 年前、約束の地を偵察した 12 人は、そこは乳と蜜の流れる地、しかしその地に住む民は力が強いと報告した(13:27-29)。その時に、カレブとヨシュアだけが登っていきこうと言った。これはそれぞれの信仰の実態を表している。他の 10 人は不信仰に陥り、その結果荒野へ進む事になった。

信仰を持っていても、自分の知恵や力に頼り、困難な現実を避けることがある。しかし、カレブやヨシュアのように神の力に信頼したい。神に信頼するときに、神は必ず祝福を与えてくださる。

2022/1/27(木)

## 申命記 10 章

神様の愛の深さを改めて覚えよう。金の子牛を崇拝するイスラエルの民の裏切りを見た時、モーセは怒りのあまり神様に与えられた十戒の板を粉々にした。たびかさなる民の裏切りに限界がきたのであろう。しかし神様は先祖たちに約束された契約を守るために、再び十戒を与えられた。神様の約束への誠実さがここで分かる。

そして、神様が私たちに求めていることが 12.13 節で書かれている。ただ信じるのではなく、神様の恵みへの応答として示していく必要がある。応答として何が出来るだろうか？何をしているだろうか？愛されているものとして愛を示そう！

2022/1/28(金)

## 申命記 11 章

今モーセの前に立っている民は、神様の驚くべき御業を経験し目撃したけれど、彼らの子どもたちはそれを見ていませんでした(2-7)。だから、まず第一に自分たちが神様に従うことが命じられ、次に子どもたちに信仰を受け継がせることが語られているんだね(18-20)。

自分さえ良ければという考えではなく、受けた者は次に渡す責任が与えられている。これは私たちにとっても同じことではないだろうか。今自分が救われているのは、自分のためだけではないことをよく考えよう。

イスラエルの民の目の前には、神様に従う道と、そうでない道が置かれています(26)。今日、君はどちらを選ぶか。心を定めて神様に聞き従う歩みをしよう！

2021/1/29(土)

## 詩篇 111 篇

ハレルヤと神様を褒め称える歌が記されているね。『心を尽くして』ということばは、直接訳した言葉だと『心のすべてをもって』という意味になるんだって。私たちも自分の心、思いを全部使って神様に感謝することができたらいいね。

神様の偉大さ、栄光、あわれみ…様々な神様の素晴らしさが語られているけど、どれも神様の存在を確かに表現している箇所なんだ。神様がどういう方かを聖書から受け取り、知恵のはじめとなる『主を恐れること』を実践していこう！

2021/1/30(日)

## 詩篇 112 篇

111 篇の終わりの「主を恐れること」を受け、主を恐れる人がなんと幸いかと歌われているね。それは神様の祝福が、主を恐れる直ぐな人たちの世代にも、また子孫にもあるからです(2)。現実が闇のようであっても、神様の恵みは確かにあり、神様が私たちに情け深くあるように、人に情け深く、惜しみなく分け与え、自分に関わることを公正に扱う人は永遠に揺るがされることなく、神様に覚えられます。その人は神様に信頼しているので、悪い知らせを恐れることもなく、心は揺るぎません(7)。

私たちの目や耳には、心を不安にさせるようなものが届くことがあるね。それに振り回されたり、恐れる心から行動するのはなく、神様を恐れて、みことばの確かな真理に心を向けて過ごしていきましょう。